

## 第 8 節 国際環境協力の推進

### (1) 現況

分野ごとの施策を地球規模の観点から進めるには、環日本海地域を含めた周辺地域と連携した取組みが重要であり、県内ではNPECを中心に環境保全に関する交流推進事業や調査研究事業等が行われています。

一方、環日本海地域での工業化の進展等によって、海洋汚染や越境大気汚染といった広域的な環境問題への懸念が高まっており、本県の環境保全を進めるためには、越境汚染の未然防止の観点からも周辺地域での取組みの強化が必要となっています。

### (2) 講じた施策

#### ① 国際的な環境モニタリング体制等の構築

##### ア 循環型社会と低炭素社会づくりの推進

環日本海地域の地方自治体と協力した海辺の漂着物調査を実施しました。

##### イ 自然環境の保全

渡り鳥及び生育地の保全について国際的な調査を行う団体を支援しました。

##### ウ 生活環境の保全

NPECを中核拠点として、リモートセンシングによる海洋環境モニタリングや、海洋生物多様性の保全に向けた取組みを推進しました。

また、国と連携した酸性雨及び黄砂に関するモニタリングを実施しました。

#### ② 環境保全のための技術情報の共有

##### ア 循環型社会と低炭素社会づくりの推進

国連機関、環日本海地域の地方自

治体と連携した環境に関する調査研究、技術開発を推進しました。

##### イ 自然環境の保全

ライチョウに関する調査を実施しました。

##### ウ 生活環境の保全

NPECを中核拠点として、調査研究や環境交流等の各種取組みを推進しました。

また、中国遼寧省に対し、VOC分析技術向上のための職員派遣や研修員の受入れを実施しました。

### ③ 国際環境協力を担う人材の育成

#### ア 循環型社会と低炭素社会づくりの推進

環日本海地域の地方自治体との技術職員等の派遣・技術研修員の受入れを推進しました。

##### イ 自然環境の保全

自然博物館「ねいの里」において、ロシア沿海地方と共同で行った「渡り鳥共同調査」等の成果を展示しました。

##### ウ 生活環境の保全

NPECと連携した人材育成につながる環境保全の交流事業、調査研究事業を推進しました。

また、ロシア沿海地方で開催された青少年向けの環境教育事業「北東アジア青少年環境グローバルリーダー育成事業」に高校生を派遣し、環日本海地域の次代を担う環境保全リーダーの育成を図りました。

## 指標の達成状況

環境基本計画に掲げる指標の達成状況及び主な取組みの指標達成への貢献は、表1-64及び表1-65のとおりです。

表1-64 指標の達成状況

指標名及び説明	概ね5年前	現 状	目 標	
			2016年度 (H28)	2021年度 (H33)
<b>環日本海地域の環境協力を目的とした交流人数</b>  環日本海地域の環境協力を目的として、県やNPEC等が実施する技術研修員受入れ、専門家派遣、国際会議開催等により交流した人数	62人 2011年度 (H23)	68人 2016年度 (H28)	80人	100人

表1-65 主な取組みの指標達成への貢献

取 組 み	効 果
VOC対策に関する分析技術向上のための技術職員等の派遣や技術研修員の受入れ、環境協力事業に関する国際会議の開催など（H28）	技術職員等の派遣や技術研修員の受入れ、国際会議の開催等により68人が国際交流